

和山牧場における日本短角種からの牛肉生産の実態

友 菊 忠 男

(岩手県釜石市役所)

Practical Problems and Means of Settlement in Beef Production

by Japanese Shorthorn at Wayama Public Farm

Tadao TOMOGIKU

(Kamaishi City Office , Iwate Prefecture)

1 公共牧場への期待

ご紹介をいただきました釜石市役所農林課の友菊です。このような席でお話をするのは苦手で、いろいろききぐるしい点もあると思います。私が牧場経営を10年間続けてきた中で、農家の方々はどのような考え方をもっているのか、釜石のように兼業農家98%というところでどのようにして牛をながくもたせるか、また、どのようにして山に牛を放牧させるかということに勢力を集中してきました。

しかし、低所得の農家が相手に、放牧料金や草単価の算定方法など現実的にはその場その場で対応していかなければならないのが実態です。

私の話題から若干はずれますが、農家は牧場に対して何を期待し、何をしてもらいたいのか、また、農家がどのようなことを考えているのかについて、飼養農家の意向調査を行いました。その結果は、開発の時点でまとめた報告と農家の考えにずれがあるということです。それは農家の方は今進行している総合開発ではなく、牛を増頭し所得が増大する過程の中での開発でよいということですが、実際はいろいろと組合せた開発でなければ採択にならないというのが現実であります。

2 公共牧場の在り方

公共牧場の在り方として、私は地域性のある牛、160年以上もその地域の厳しい風土や社会情勢の中で育ってきた日本短角牛を大事にすることを農家の方々からも学び、自分としてもこの牛の育成に努力したいと思っています。また、牧場の経営は農家の経営と同じで、牧場がよくなれば農家もよくなるという考え方を農家の人達に教える必要があります。更に放牧の効果を、牛が山から下った場合の飼養経費とを対比しながら農家に教え、牧場の必要性和農家がこれを利用していくことの重要性を、農家と一緒に考えて考えなければと思います。特に、今までは繁殖だけでしたが、今後は肥育もやり牧場の経営を安定させることが大切です。

牧場経営の安定化を図るためには、牧場の放牧頭数が多いこと、それで牧場の収入が増加して経営が安定し、更に、放牧料金が安定し草を安定的に供給できる体制がとれるということです。放牧利用は牛が牧草を採食して増体することが前提になりますが、地域性があり草利用で効率の高い牛をつくる体制

表一 1 放牧利用農家戸数

年 度	放 牧 利 用 農 家 戸 数 (戸)	年 度	放 牧 利 用 農 家 戸 数 (戸)
昭 和 48 年	135	昭 和 53 年	136
" 49 "	120	" 54 "	126
" 50 "	150	" 55 "	127
" 51 "	148	" 56 "	126
" 52 "	146	" 57 "	123

を早めることが大切だと思います。

また、繁殖経営と肥育経営を同時平行的に行う必要があると思います。それは子牛を毎年市場価格で売っていきますと、その変動の中で子牛を売ることになり、農家の方々はその相場に敏感ですから、それによって牛を多くしたり少なくしたりすることになります。

繁殖から肥育までの一貫経営でなければ、短角はこの地域から消えていくという緊迫した考え方を農家に説明し、肥育をこの地域で行うことは、それを山にあげれば牧野組合の放牧料金がそれだけ多くなり、肉の市場価格も高まり、飼養農家の利益も多くなるという輪換的な考え方を定着させた繁殖と肥育一貫経営を確立したいと思います。そのためには肥育放牧に適した草作りの検討が大切です。

表一 2 釜石市和山牧場の草地管理運営実績の概要

項 目		年 次										
		昭48	昭49	昭50	昭51	昭52	昭53	昭54	昭55	昭56	昭57	昭58
改 良 造 成 利 用 面 積 (ha)		155	170	170	250	250	300	300	322	322	389	389
乾 牧 草 生 産 作 業	刈取・放牧兼用面積(ha)	70	76	79	119	107	109	103	97	108	134	120
	乾草生産販売量(t)	147	200	127	144	191	234	175	139	168	381	447
	乾草販売高(千円)	3,739	6,017	4,323	5,795	7,300	8,986	7,792	7,034	5,927	10,882	16,474
	半乾草生産販売量(t)	59	54	79	55	52	213	43	34	151	89	150
	半乾草販売高(千円)	469	482	878	963	1,068	1,524	1,075	850	2,990	2,047	3,450
	乾草・半乾草合計販売量(t)	206	254	206	199	242	447	218	173	319	470	597
	乾草・半乾草販売高(千円)	4,208	6,499	5,201	6,758	8,368	10,510	8,877	7,884	8,917	12,929	19,924
放 牧 牛 寄 託 作 業	放牧専用面積(ha)	85	94	91	131	143	191	197	225	214	255	269
	放牧牛実頭数(頭)	305	468	477	586	600	579	637	704	815	914	837
	肉短角牛実頭数(頭)	276	405	387	459	421	341	359	425	523	567	556
	購入肥料(4-8-4)(kg)	64,103	57,644	60,123	84,250	62,340	73,611	57,308	79,059	87,126	100,000	86,915
	購入肥料費(千円)	2,468	3,044	4,380	6,660	5,221	6,349	5,089	7,230	8,778	10,690	9,804
	1 ha 当たり施肥量(kg)	413	398	354	337	249	245	191	245	270	257	223
	10 a 当たり生草量(kg)	3,170	3,930	4,010	3,540	3,650	3,500	3,380	3,430	3,430	3,530	3,370
経 営 内 訳	乾牧草生産可能日数(日)	48	111	77	53	76	130	92	32	85		
	牧場使用料(千円)	4,285	5,540	7,531	8,083	10,750	10,379	10,644	13,782	17,266	18,833	16,879
	放牧料+牧草販売高(千円)	8,493	12,039	12,732	14,841	19,118	20,889	19,521	21,666	26,183	31,762	36,803
	牧場運営経費(千円)	7,601	11,075	15,107	18,949	19,292	20,509	21,235	26,730	26,052	32,825	36,838
	人 件 費(千円)	3,068	5,673	6,944	8,097	9,521	10,531	10,832	12,683	9,827	9,501	9,535
	人件費+肥料費の割合(%)	73	79	75	78	76	83	75	74	71	615	53
	草地化成(4-8-4)1袋の単価(円)	770	900	1,457	1,581	1,675	1,760	1,850	1,950	2,047	2,135	2,256

更に長期放牧の一貫として、早期放牧を考え、牧場の不順な天候の中でも調製できる半乾草サイレージを4月1日から5月10日まで給与しました。結果は非常によかったものの、サイレージ調製のための経費が高くつくため中断していますが、草の生産を高め効率的な利用を図るための新たな計画を計画しています。また、早期放牧は早く種付けができ子牛の増体を高める効果も期待できます。更に、牧場での放牧期間を延長し、農家の冬期間における粗飼料をいかに少なくするかが低コストにつながるということで現在検討中です。

低コスト生産のためには半乾草サイレージを利用し、繁殖や肥育を行うことが効果的で、特に和山牧場は1年間で好天の日が35日間で、125 haの採草地の活用をはかっていますが、このような条件の中ではサイレージの供給で対応せざる得ないというのが実態です。

3 放牧衛生と草地の管理

更に、放牧衛生検査は年間8～9回行います。これは農家と牧場は常に交流を図りながら、牧場は農家から預託された牛の増体量を高めるという技術的なことも考えていますが、更に牧場と農家は一体の経営であるということを常に農家に教え、牧場の作業にも参加していただいています。

私がこの牧場にきた昭和48年には、短角牛にピロの注射を1回だけしかやっていませんでした。前任地の長野県では乳牛に対し注射を3回しています。岩手県ではどうして1回だけなのか疑問をもちました。まだ、農家が不勉強であったという気がしましたので、ピロプラズマは放牧牛に対し最も害のあることを力説しながら現在ではピロ3回と肝蛭1回の注射を実施し、特に放牧衛生に注意をはらっています。

農家の預託牛が病気になれば、農家が山にこなくとも完全に治療することも牧場経営上極めて重要であり、このことについて常に看視員や牧野組合の理事にも理解をいただいています。

牧場経営の中で最も経費の大きいのが肥料代です。これをいかに合理的に少なくするかが問題ですが、幸いに私達のところでは下水道処理の汚泥がありますので、これを本格的に活用しています。試験的に0.6 haの草地に10 a 当り 300～350 kgを散布した結果、追肥では草収量に対して化学肥料よりも効果の大きいことが明らかになりました。今後も継続的に活用し牧場の経費節減をはかりたいと考えています。

私が10年間の記録をまとめた中で、昭和48年に化成肥料4－8－4が770円であったものが、昭和58年には2,256円になっています。このような高価な化学肥料を放牧地に満遍なく施用することは経営的に困難であり、傾斜地には3年に1回ぐらい散布するという状態です。

また、草地に堆肥を還元するためには牧場で肥育を行う必要があります。堆肥を草地に還元するという循環的な考えで進めています。

4 放牧料金についての考え方

放牧料金は子牛価格の何%程度でよいかということについて論議したことがありますが、大体17～18%ということです。しかし、これに対しては反発もあります。短角の販売価格を18万円とし、半乾草サイレージで繁殖牛を飼養することとすれば、1 kg当り半乾草が15～18円、乾草が45円以下、放牧料金は1日140円ぐらいでないと、18万円での子牛生産はできないということです。

表-3 和山牧場における日本短角種の放牧当戈牛の年度別平均価格と放牧料金

年度	1日当たり放牧料金(円)			放牧料金 (円) (A)	家畜市場の 平均子牛 価格(円) (B)	$\frac{(A)}{(B)} \times 100$ (%)	木場販売 平均体重 (kg)	放牧期 間 D G	摘 要
	当戈	2 戈	3 戈 以上						
昭43	15	25	35	9,900	81,400	12.2	—	—	1. 放牧料金は市場前日までの母牛当戈牛の放牧料金を加算したもの
44	25	40	45	14,025	48,500	28.9	—	—	
45	30	45	50	15,675	55,100	28.4	—	—	
46	45	60	65	18,150	56,200	32.3	—	—	
47	45	60	65	18,150	102,070	17.8	187	—	
48	40	60	120	23,360	215,100	10.9	206	0.96	2. 母子牛の放牧料金は子牛市場平均価格に対して18%程度が望ましいと考えている。
49	40	60	120	24,160	79,200	30.5	267	0.99	
50	40	60	120	24,960	126,400	19.7	217	1.13	
51	40	60	120	25,120	126,700	19.8	206	1.11	
52	70	110	140	32,970	153,000	21.5	216	1.10	
53	70	110	140	34,440	182,000	18.9	213	1.06	
54	70	110	140	37,170	278,200	13.4	227	1.08	
55	70	110	140	34,650	262,700	13.2	239	1.01	
56	70	110	140	38,850	228,400	17.0	250	1.01	
57	70	110	140	35,910	176,500	20.3	234		

現在の放牧料金は1シーズン4万2,000円、これから逆算して冬期間の成牛の子とり管理費が6万5,000円、放牧諸経費が1万5,000円とし、農家の手どりが6万円ぐらいになれば、それを1農家で3～4頭以上の規模として山にあげていただければ、牧場の経営もよくなり農家もよくなるように思います。

5 日本短角牛肉の評価

現在2シーズン放牧を実施していますが、一般の消費者は短角は非常にまずい肉だという考えがあるようですが、私達は25～31か月までの肥育を行ってきました。その肥育の過程でつぎつぎ肉質や肉色もかわってきます。

そういうことから短角はそれほど悪い肉質ではないと思います。

私は先般、西武食品デパートの食品部長にあい、そこで売っている松坂牛と短角牛とをならべて試食していただきましたが短角牛の肉を松坂牛に評価されたほどです。そしてこんなに旨い短角の肉ができるんですかと驚いていました。短角種の特性は草で飼い、運動を十分させ、ある程度の期間をかけて肉質をつくらないと本当の短角の肉ができあがらない。若齢の肉をつくるのであればホルスタインの雄の去勢牛でもよいと思います。

6 おわりに

結論としては、この地域として山にあげる牛をどのようにして増頭するかを農家の方々と共に考え、この豊かな自然と草利用に適した短角牛の奨励をこれからも進めていきたいと思っています。